相馬市

SOUMA AREA

浜通り環境放射線研修

-成果報告会-

2025年度 9月回 大熊C班

笹森 玲那・服部 紗来・福田 光希

吉岡真志・清水 歩

(教員:栗本 聡 先生・遠山 伸一 先生)





はじめに

- ✓ 過去、現在、未来の視点を軸に
- ✓ 毎日の振り返りのなかで、
 特に議論が白熱した話題から

伝承・まちづくり



経緯



- 環境省や自治体の方々のお話を聞いて、 災害や復興に携わる人の多様さを知った
- 異なる視点からの話に触れることにより、 地震や津波、原発事故の状況がありありと 想像され、琴線に触れる部分が多かった

私たちの考える『伝承』

- 紙などの資料では伝えることのできない 『感情』や『思い』を伴う、後世に伝えるべき ことを対話によって直接伝えること
- 強い意志を持って伝えていかなければ消えて しまう記憶を引き継ぐこと

意義

- 後世の人に対して、『感情』や『思い』を 伝えることによって、同じ間違いや苦しみを 繰り返さないようにする
- 直接、お話を聞くことで単なる知識としてでは なく、身近なこととして捉えられるようになる

数十年、数百年後に正しく伝えられるか?心のどこかで『フィクション化』しないか?

多様な声を集める



現状: 被害にあった人のみが取り上げられていることが多い



これから: 公的な伝承館であっても、東京電力や行政(環境省など)、 ボランティアの方々など、多様な視点からの話にも分量を 割くと良いのではないか

- ✓ 理解が深まり、客観的・多面的に捉えられる
- ✓ 興味、関心を持つきっかけになる

都市部に伝承館を



現状: 現場(福島)を実際に訪れなければ触れることができない



これから: 原発事故について詳しく理解できるような施設を都市部にも

作り、当時現地にいた語り手のお話を聞ける機会を設ける

- ✓ より多くの人が災害や事故、福島の現状について 知ることができる
- ✓ 正しい知識を得ることができる
- ✓ 実際に福島を訪れるきっかけになる



私たちが考える大熊町のすがた



過去、現在、未来の視点から…



『ほどよい田舎』

大熊町の過去

- 町内会のお酒!
- お弁当目当ての原発見学!
- お花見!





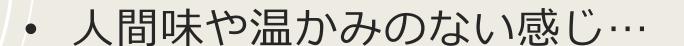
生き生きとしたすがた

大熊町の現在

▶ 町内人口:1,047人(令和7年8月末現在)

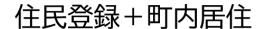
→震災前の 1/10

• 新しい機能的な建物



• 人が歩いていない









私たちが考えた大熊の未来 待てよく

本当に大熊町は残す必要がある?



- 人口減少
- インフラストラクチャーの維持
- 予算面



率先して消えた方がいい?

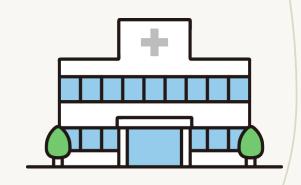




『ほどよい田舎』



インフラストラクチャー・商店







一回でも大熊町に来たことのある人を増やす

1芸術祭

歴史や伝説、復興へ向かうさまざまな立場の人々

インスピレーションの源に。



まちの人々も制作に参加できる

旅行者に深く印象付ける

②星のまち

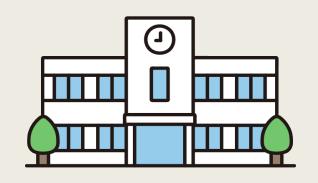
美しい星空

宿泊



⇒大熊町にハマる人がさらに出てくる

教育面でのさらなる充実



高校

地域とのつながり ⇒ 地域同士のつながり

大熊町にいた人が帰ってきたくなるようなまち

震災前

震災後

ひとつながりの広報やまちづくり

まとめ

-伝承とまちづくりの観点から-



- 町内外のいろいろな立場の人の視点
- 大熊にかかわる人の人数を増やす





⇒ "共事者"を増やそう





参考文献

1. 大熊町役場 住民税務課 住民係. "令和7年8月末現在の居住状況・避難状況". 大熊町. 2025年9月2日. https://www.town.okuma.fukushima.jp/soshiki/juminzeimu/31941.html, (参照 2025/10/02)



本研修・発表にあたりご助力いただいた 浜通り研修事務局の方々、先生方、大熊C班 栗本先生、 遠山先生に深く感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました



ハわき市

